

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(篠井地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成26年度 第7回
まちづくり懇談会《篠井地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《篠井地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成26年10月21日（火）午後7時～午後8時30分
- 2 開催場所 篠井地区市民センター
- 3 参加者数 57人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，
篠井地区市民センター所長，土木管理課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

篠井地区ゆたかなまちづくり協議会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	北西部地域の一体的活性化について 1 雇用関連施策について 2 定住，交流促進施策について (1) (仮称)石那田インターの早期実現 (2) 農村体験機会の拡大 3 教育関連施策	1 地域政策室 都市計画課 産業政策課 商工振興課 2(1) 土木管理課 (2) 観光交流課 3 政策審議室 用地課 学校教育課 生涯学習課 学校健康課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ
市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために

- | |
|--|
| (1) 地域産業の創造性・発展性を高める
(2) 農林業の付加価値を高める
(3) 魅力ある観光と交流を創出する |
|--|

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	イノシシの被害対策について	農林環境整備課
2	日光街道の自転車の安全な通行のための道路整備について	土木管理課
3	篠井連峰登山道の改修, 整備について	観光交流課
4	篠井保育園について	保育課
5	篠井連峰登山道(下篠井登山口)について	観光交流課

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 櫻井 啓一

(7) 市長謝辞

■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	北西部地域の一体的活性化について
------------	-------------------------

北西部地域の一体的活性化について、篠井は山に囲まれた自然環境の良さはたくさんあるが、働く場所、病院、商業施設が乏しいので市が推進している制度だけでは残念ながら自分達の地域は持続出来ないのではないかと思われる。

平成 22 年 4 月に出された第 2 次宇都宮市都市計画マスタープランによると、北西部地域の地域整備のイメージは特色ある観光・交流資源の充実や観光と農林業の連携の強化、都市との交流を中心とした地域の活性化を図るとともに豊かな自然などの地域資源を次の世代に引き継げるよう、定住環境を維持しながら適切な整備・保全を図ることが必要となっている。北西部地域の定住環境を向上させ、人口減少の歯止めをかけながら持続可能な地域づくりをしていきたい、そういう意味で市が出している考え方と我々地域の考え方が全然違うわけではないが、理解できないところがあるので具体的に質問をさせていただく。

1 雇用関連施策について

大晃ドライブインの跡地がそのままになっているが、一体どうなるのか大変関心がある。インター周辺の開発と企業誘致についても、地域を持続可能にするためにはどうしても若い人に残っていただかなければならない。若い人達の雇用の場を前向きに考えていただきたい。

2 定住と交流促進の施策

(1)（仮称）石那田インターの早期実現

我々の地域にとって非常に重要度の高い生活道路として県道 77 号がある。上篠井から日光市へ通じる約 1.2 キロメートルの距離の道路の狭い所の拡張を、地域の活性化のために必要であることから、今年度、インターの件と併せて県へ要望をしたいと考えている。

この船生街道を塩谷町へ向かう佐貫観音のところにとても古い橋がある。この橋は車両がすれ違うことが出来ないほど狭い橋である。来年 3 月にこの橋が大きな橋として工事完了する。更に石那田インターが出来ると交通量が増えることが見込まれる。今月 19 日には元の村役場の記念碑の所で大きな事故があり、元篠井村の碑が壊されてしまった。現在も壊れたままになっており、そうしたことから、我々にとっては大切な道路の安全のために石那田インターと併せて市からも県へ要望をしていただきたい。

なお、我々は、県道 77 号については塩谷町と日光市の塩野室地区、インターについては猪倉地区の上中下と猪倉団地の自治会長に署名をいただき、県へ提出する予定である。地域の活性化のためにできるだけ自分達で出来ることは全力投球でやって行くつもりである。

(2) 農村体験機会の拡大

団塊世代の方が退職を迎え、時間にゆとりが出来ることから、田舎で生活してみたい、もしくは日曜日は田舎へ行って体験をしてみたいなど様々な生活スタイルへの関心が高まってきている。農村体験ツアーの企画に取り組んでいただきたい。また、篠井も近い将来、間違いなく空き家が出てくると思うのでそれらも活用しながら年長者と交流し、最終的には篠井の良さをアピールして移住を図っていきたいので定住人口を創出することができないか。

3 教育関連施策

児童生徒の減少と共に子ども達の切磋琢磨の場が減少してくる。そして地域においても、集団の教育活動である学校行事や地域の文化を次第に持続出来なくなってきてしまうので、生徒を増やすための子育て施策、ファミリー世帯の定住環境を向上させ家庭と地域が連携した特色ある学校づくりを進めていただきたい。先生は教育の資格を取って先生になり、校舎は行政がつくり、その中で勉強することは市の教育委員会が決めた教科書で勉強する。街の子ども達も田舎の子ども達も同じ教科書で同じ教室で学ぶことになる。違うところは、教室の窓を開け、学校から一歩外へ出た時の環境である。篠井小学校へ行かなければ学べない、体験出来ないこともあり、素晴らしい地域環境で育った子ども達は必ず素晴らしい発想を持ち、世のため、人のためになる人間が育つと思っている。ぜひ、篠井の地域の良さを市の教育施策に取り入れていただきたい。

1 雇用関連施策について

回 答	所管課：地域政策室，都市計画課，産業政策課，商工振興課
------------	------------------------------------

【市長】

篠井地区の良さをどんどん出して篠井の歴史や文化を良くしていきながら自分達の特色を生かしてこれからも発展し、そして宇都宮としても発展をし続ける。そのためにも篠井の特色あるいは篠井の良さ、篠井の新しい武器となるものを作っていかなければならないと思う。会長からいただいたお話や皆さんが感じているような、日常の生活の中でのこうすればもっと利便性が高まるのではないかというものに肉付けをして、篠井の魅力を高めて行きたいと思う。

まず、宇都宮インターチェンジ周辺は北西部地域の拠点になるので大変重要だと我々も捉えている。特に大晃ドライブインはここを開発するために既に民間の企業がこの土地を購入した。行政としては民間の土地所有者に依頼をして北西部の地域拠点としての役割を担っていただけるような開発をしていただきたいと思っている。

この開発は今までの都市計画における線引きの時に既に出来ていたもので、開発をしようとする際に今までにあった建物の1.5倍まで開発が出来るようになっている。

土地所有者の考え方一つにはなるが、更に良い物をそこに作る事が出来る可能性がある。民間施設ではあるが行政としては連絡を取り合いながら、いかに北西部にとってプラスになるような開発になるか、それを誘導しながら北西部の拠点にして行きたいと考えている。

皆様も、日頃感じていること、こんなものが出来たら良いと思っているものがあるれば話をいただきたいと思う。既に櫻井市議を経由していくつか話もいただいているので地元の意見を伺いながら民間に働きかけていきたいと思う。

2 定住、交流促進施策について

(1) (仮称) 石那田インターの早期実現

回 答	所管課：土木管理課
------------	------------------

【市長】

佐貫の観音橋が来年3月に新しくなる。今まで相互交通が出来なかった所が相互通行出来るようになるが、今度はそこに行くまでの道路や周辺の整備も必要になって来ると思う。県道77号宇都宮船生高德線の拡幅については市から県に強く働きかけていきたいと思う。

また、皆様から毎回ご要望をいただいている(仮称)石那田インターであるが、平成23年に土沢インターが開通した。いよいよ今度はこの石那田インターだと思っている。土沢インター開通後直ぐに出来なかったのは県の財政改革「とちぎ未来改革プログラム」が始まったため困難な状態になったのだが、このたび、計画が終了し、既に国と県が協議に入っているということなので、市も更にそこに強く呼びかけ、願いをして早期実現が出来るようにこれからも努めていきたいと思う。

毎年8月に知事や県議会に対して設置の要望を実施してきたが、今年8月にも総合政策部長とお願いをしてきた。ことあるごとにこの話はして行きたいと考えている。

(2) 農村体験機会の拡大

回 答	所管課：観光交流課
------------	------------------

【市長】

市としては団塊世代の方々を含めて都市住民の農村暮らしや農業体験の要望が大変高いということもあり、これをチャンスと捉えて都市部にも働きかけを行っている。都市住民と宇都宮市の農村との体験交流や農産物の収穫を宇都宮の目玉の一つにしていきたいと思っている。特に篠井地区においては、ゆたかなまちづくり協議会においてうどんの打ち方や味噌作り、りんご狩りなどを率先して行っていただいている。大変ありがたいことであり、宇都宮の農業の強みを活かせる取組を積極的に行っていただいている。

さらに、ろまんちっく村は指定管理者制度によりファーマーズフォレストという会社に運営をお願いしている。入場者数も多くなり、道の駅になってからは年間120万

人以上の来場者の大きな施設になった。まさしく北西部の拠点の一つだと思う。グリーンツーリズムの体験ツアーを積極的に実施しており、篠井農産加工所のうどん手打ちなど篠井地区の農業体験をコースに組み込むなどメニューの充実をこれからも働きかけていきたいと思う。

篠井地区の皆様は本当に熱心な方々ばかりであるので、ろまんちっく村や市の施策と併せて、今まで続けてきたことに加えて更に我々と一緒に新しい物を作り出すことが出来ればと思っている。ぜひ、ともに協議の場を通して、新しい体験、農業体験やツアーなどを企画するための力をいただきたいと思う。

3 教育関連施策

回 答	所管課：政策審議室，用地課，学校教育課，生涯学習課，学校健康課
------------	--

【市長】

街の中の地区と自然豊かな地区との教育についての話をいただいた。街の中とそれ以外の所では差は無いと思っているが、感覚の違いというもの少し出て来ているのだと思う。宇都宮市では年に数回、家からお弁当を持参する「お弁当の日」を行っている。低学年の子ども達は、家族と一緒に買い物に行き、材料を選び、お弁当を作る手伝いをしたり、調理をする姿を見ることにより、お弁当を作る家族への感謝や農産物を作る農家の方々への感謝の気持ちを学んでもらうため、「食育」という観点から「お弁当の日」を実施している。おそらく篠井などの自然豊かな所に住む子ども達には当たり前のことであり、誰に言われなくても自分でやるということを理解していることだと思うが、そういうことも市全体として行わなければならない時代になった。高学年になると自分でお弁当を作ることが出来る子どももいたり、お手伝いをしながら作る子どももいる。そうして年数が経過すると子ども達の明らかな成長が見られる。こうしたことも市では積極的に行っているので、会長が心配されているような取組が必要だということは我々も理解をしている。

また、篠井地区には篠井ニュータウンがあるが、篠井ニュータウンは平成26年9月末現在で全310区画のうち、204区画を契約した。契約の7割は20代から40代までの若い世代であり、約150世帯、約450名が居住する篠井地区最大の自治会を形成している。篠井地区に篠井ニュータウンがなければこのような状況にはなっていないと思うし、多くの子ども達に篠井地区の自然豊かな環境を味わっていただくことも難しかったと考えている。

篠井ニュータウンについては、現在、職員が東京などへ行きPRをしたり、日光市の旧今市地区の賃貸住宅や集合住宅へポスティングをしてPRをしている。また、大手企業に対する働きかけや住宅販売会社・宅健協会へお願いをしてPRしているところであるが、これからも篠井地区の発展、宇都宮全体の発展のため、完売に向けて頑張っていきたいと思う。

また、特色ある学校づくりの中で「お弁当の日」の話をしたが、特に篠井小学校では児童が松寿会の方々からご指導をいただき、田植えや昔遊び、あるいはゲートボールを教えていただいている。ゲートボールは三世代交流が出来、幅広い交流につながるものでこれも篠井地区の特色だと思う。さらに晃陽中学校、富屋小学校との交流も冒険活動教室等で3校合同で行っているということであり、これは宇都宮だけでなく全国に先駆けてPR出来る大きな特色ある学校づくりだと思う。こうした取組をこれからも行っていただくと宇都宮市全域に波及することが出来る。市内でそのような環境にない地区においては篠井地区を借りたり冒険活動センターを活用したりして宇都宮全体の子ども達はその良さを味わえる機会を創出していきたいと思う。

篠井地区が発展するため何が出来るかを常々考えており、皆様から様々な意見をいただく中で、北西部の拠点の一つとして体育施設やスーパー、雇用につながるような民間企業の誘致も数多く検討していただいた。それら全部を頭に収めてあるのでそれらを基に、民間の土地を取得された方々と協議をしていきたいと思うのでよろしくお願ひしたいと思う。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために (1) 地域産業の創造性・発展性を高める (2) 農林業の付加価値を高める (3) 魅力ある観光と交流を創出する
------------	---

第5次総合計画は宇都宮のまちづくりの最も基本となる計画、つまり羅針盤のようなものである。この中で全市民の5年後の市民の幸せ、100年後の都市の繁栄まで考えた道筋を示したものである。その計画に基づき、様々な施策や事業を推進していくが、皆様方から意見をいただきながら意見の交換の場としたい。

(1) 地域産業の創造性・発展性を高める

本市は篠井地区をはじめとする広大で肥沃な農地や豊富な水資源を有した、農業にとって恵まれた環境に加え、市東部には国内最大規模の内陸型の工業団地を有しており、農業・商業・工業がいずれも中核市において高い水準を維持している。この農業・商業・工業の3本柱が中核市の中で高い水準であることが宇都宮の大きな特徴だと思う。今後は地域特性を活かしながら、異業種を組み合わせた新たな取組や時代の変化に併せて多様化するニーズへの対応を図りながら宇都宮市の産業を発展させていくことが重要である。

こうしたことから、宇都宮市の農業・商業・工業において、相互に新たな関係や連携が生み出され、地域資源の有効活用や人材の交流が活発化して、地域産業の創造性・発展性が高まっているという今後5年間で望ましい姿を目標として設定をした。

宇都宮市の事業所数の99%が中小企業であり、このことから、中小企業が納税や雇用に力を発揮していただいている。また、宇都宮の強みである農業における農業産出額は197億円であり、中核市の中で5位である。工業における製造品の出荷額は1兆8千億円であり、中核市の中で5位である。商業における年間消費販売額は2兆8,000億円であり、中核市の中で第2位であり、とてもバランスが取れている。

目標達成に向けた主な事業は、大谷地域の資源を活用した支援策として、大谷採石場跡地での夏季いちご栽培技術の確立や大谷地域資源の有効活用の拡充である。

(2) 農林業の付加価値を高める

トマトや梨、アスパラガスなど安心安全でおいしい農産物のブランド化によって、宇都宮市の農産物を全国にPRし、引き続き「農業王国うつのみや」を推進することが必要である。

収益性の高い作物の産地化に対する支援や、意欲ある担い手の確保・育成のため新規就農者の農地の確保や機械・設備の導入に対する助成など、宇都宮市の農業持続力の向上に取り組んでいくことが重要である。

篠井地区における飯山・上篠井地区の皆様におかれては、効率的な農業生産を実現するため、宇都宮市で初めてとなる集落営農の法人化を目指していると伺っている。大変ありがたいことであり、我々としては、宇都宮市全域において集落営農の法人化が進んでいくようなモデルになっていただきたいと思い、大変期待をしている。

こうしたことから、農林業を支える多様な担い手が育ち、生産力や産地力が向上し、良好な農林環境の形成など、総合的に農林業の付加価値が高まっている状況を今後5年間の望ましい姿として設定した。

農業を営んでいる方々は本当に高齢化が進み過ぎていてどうするか、そして耕作放棄地が今後増えないためには何をすべきかが宇都宮の農業の大きな課題である。このようなことから、「農業王国うつのみや」を目指す本市の目標達成に向けた主な事業としては、まず、意欲ある担い手の確保・育成として、新規就農者の機械・施設等導入支援を行っている。また、農地の守り手農業機械等導入支援補助金を作ったほか、条件不利農地の維持・保全を目的とした農業生産法人等に対して、機械のリース費用の一部助成を行い、農業の発展を阻害する要件を少しずつ排除していく取組を行っている。

(3) 魅力ある観光と交流を創出する

宇都宮市の状況は、観光資源を活用した国内外の情報発信、知名度アップに取り組む観光客の増加を図るなど、本市の魅力を積極的に発信していくことが必要である。

ジャパンカップサイクルロードレースの開催など、スポーツと観光などを有機的に結び付け、来訪者の増加と宇都宮市の滞在に繋がる取組の展開が重要である。

次代を担う子ども達が里山の豊かな自然の中で、「自ら遊び・学び・鍛える」という直接的な体験学習を行い、自然に対する理解を深め、人と人とのふれあいの大切さを知ることが出来る施設として、冒険活動センターがとても多く利用されている。市内外の小・中学校の受け入れを行うほか、家族連れ等の方々にも利用されている状況である。

このように交流人口を増やしていく取組がこれからますます重要になる。

こうしたことから、新たな資源が発掘、活用され、宇都宮市の観光資源の価値が更に高まり、市民も自らの地域に誇りを持つことで、多くの人に宇都宮を訪れ楽しんでもらえるような、魅力ある観光と交流が創出されている状況を今後 5 年間での望ましい姿として、目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は、観光セールスの強化、戦略的な観光事業の推進、農業・農村のふれあい交流事業である。

主な施策指標は「来て良かった」、「また訪れたい」と感じている来訪者の割合の増加を掲げた。

■自由討議（要旨）

発言 1 イノシシの被害対策について

近年、非常に深刻の度合いを増しているイノシシの被害対策について伺う。狩猟捕獲従事者が活動を継続できる支援の充実をお願いしたい。近隣の地区でも同様かと思うが、イノシシやハクビシンなどの生息域の拡大や生息数の増加により、あちらこちらで被害が拡大している。今年の夏には、イノシシが数頭、昼間から篠井小学校から北 200 メートル先の人家付近に出没したり、夜間に雑木林から県道に飛び出してきて乗用車に衝突するなど、農作物被害にとどまらず、住民の日常生活まで脅かそうとしている。

市は狩猟捕獲従事者の減少と高齢化が進んでいる中、各地区での被害防止研修会の開催やわな狩猟の免許取得、わなの購入費や保護柵設置に対する補助制度、さらには本年度から狩猟の報奨金を増額するなど、従事者の育成のための対策に力を入れている。篠井地区においても捕獲する意欲を高めるために本年度から地区の農政対策協議会が独自に捕獲の報奨金を交付することとした。

しかしながら、従事者が捕獲活動を続けて行く上で、まだ大きな負担となっていることが現状である。次の点について市の支援をお願いしたいと思う。

(1) 捕獲活動のための経済支援

わなの免許を取得しても毎年登録料や諸経費等がかかり、経済的な負担が大きい

め、2年目以降の免許維持の補助をお願いします。また、箱わなは獲物が暴れて破損することが多く、再利用が出来ないために購入費用の助成の拡充をお願いします。

(2) 捕獲イノシシの回収処分の仕組みづくり

捕獲したイノシシの処分について、集約的な産廃処分場がなく、現時点で食用などの有効な活用もないため、個人で殺処分をして埋設処分を行わざるを得ず、大変な労力が出る。足利市は、有害鳥獣として捕獲したイノシシを狩猟捕獲従事者からの依頼により、猟友会や市職員が回収して処分を行うことで負担を軽減し、捕獲頭数増につなげようとしている。本市においてもこのような有効な方法が取れないか、是非、検討をお願いします。

回 答	所管課：農林環境整備課
------------	--------------------

【市長】

イノシシに収穫間近の農作物を荒らされてしまうと本当にかっかりしてしまうという話を篠井のうどんまつりなどの時に様々な方からお聞きした。わな免許取得は平成25年度より、地域研修会や捕獲技術講座会などを通して捕獲免許を取得していただけるようにPR活動を行ってきた。

また、初めて免許を取得する場合に限り、補助率2分の1、上限1万円内で支援をしてきた。2年目以降の登録費用の補助については、効果的な対応、対策を検討して、その取得費用が負担にならないような対応をしていきたいと思う。

また、わなについてはイノシシが暴れてわなを破損する場所があると聞いている。平成25年度までは3年間に1度補助してきたところだが、2年に1度の補助に拡充した。

イノシシの処分については、放射能の問題から自家消費を控えていただいている状況である。したがって、埋設処分をしなければならず、これは大変な労力を必要とし、捕まれば捕まえる程疲れてしまうという状況である。そうしたことから、平成25年度までは1頭当たり5千円の報奨金であったところ、平成26年度からは処分経費相当分として、成獣1頭あたり8千円、幼獣1頭あたり6千円に金額を拡充した。

しかしながら、自分で処理をしないで済むように積極的に捕獲をして、イノシシの数をできるだけ減らして、農産物が被害を受けないような良い循環にしていくためにも、埋設は相当な労力があることが分かったので、何とか工夫していきたいと考えている。イノシシの問題が、宇都宮を支えている農業が衰退する要因の一つとならないようにしていきたいと思うので、これからも意見をいただきたいと思う。意見をいただいただけではなく、きちんと対応をしていくのでよろしくをお願いします。

発言 2	日光街道の自転車の安全な通行のための道路整備について
-------------	-----------------------------------

日光街道の自転車の安全な通行のための道路整備について要望する。日光街道国道119号を市の中心部に向かって、石那田町から晃陽中学校前を過ぎて徳次郎交差点までの手前の新川の橋から緩やかにカーブした中徳次郎バス停付近までは、大型車などがすれ違うのに苦勞するほど道路の幅が狭くなっている区間である。ここは朝晩通勤や篠井地区から通っている高校生の通学道路としているが、自転車で通勤する人も多いため、車道をはみ出して走行している方も多く見られる。この区間について自動車のみならず自転車や歩行者も安心して通行できる道路の拡張整備をお願いする。

回答	所管課：土木管理課
-----------	------------------

【市長】

ご指摘の区間については、前回、富屋地区のまちづくり懇談会で同じ意見が出た。道路幅員が狭い所もあり、危険であることから、何とか市から県に働きかけてほしいと要望があり、毎年、県へお願いをしてきた。

ご指摘の区間は、今年7月に地元である富屋地区の住民の方々や沿線の地権者の方々にお集まりいただき、県において説明会を行い、整備協力の依頼と測量の実施についての説明をさせていただき、地元の了承を得たので、これから測量と調査を行うとのことである。事業の推進にあたってはぜひ、工事が早く進むようにお力をいただきたいと思う。引き続き、市からも工事の早期着工・早期完了に向けて働きかけていきたいと思う。

発言 3	篠井連峰登山道の改修、整備について
-------------	--------------------------

榛名山などの篠井富屋連峰の登山道の改修、整備についてお願いしたい。篠井地区の唯一の自慢は自然豊かな環境である。山に囲まれ、盆地であること、山に登れば360度の景観を臨むことが出来る。特に、眼下に、居住地の家並み、遠くには日光連山を遠望する時、この上ない安らぎを感じる事が出来る。当地域は宇都宮市の中で最も少子高齢化率が高く、過疎化が進んでいるが、この自然豊かな環境の良さを子孫に教え、自然を愛する心を育むことこそ、この土地に留まり住み続ける気持ちが湧いてくるものと思う。私も時々、冒険センターの体育館から洞窟までのコースを、孫を連れて歩くが、それ以上のコースには自信がない。その理由は登山道路の案内標識が少ないことである。休日はもちろん平日も県外から多くの登山者が訪れる篠井富屋連峰の簡易な整備は地元の有志の方々がやっている。

冬場の降雪や夏場の台風などによる倒木や老朽化している案内標識の破損、急斜面の危険箇所も数箇所あることから、既存案内標識の改修、急斜面の箇所への丸太等による階段整備、更に登山口から頂上まで、誰もが迷わずに登れるよう、案内標識の追

加・整備など、登山道の改修、整備に取り組んでいただきたい。

回 答 所管課：観光交流課

篠井富屋連峰はハイキングコースとして、市内はもとより市外からも訪れる方が増えている。登山ブームも手伝っていると思うが、これからますます人気が高まるコースの一つだと思う。地域の方々に倒木の管理やハイキング道の整備にお力をいただいていることを心から感謝申し上げたい。

宇都宮市としては、宝の一つだと思っているので、地権者の方に同意を得たうえで、案内看板も平成 21 年度に設置した。また、毎年、定期的に草刈等の管理も行い、歩きやすい環境を作る努力をしている。台風や降雪などの時も冒険活動センターから情報が入ってくるので、現場確認を行いながら整備をしているが、6 月の桜井市議からの市議会での一般質問を受け、すぐに倒木の処理を行った。また、9 月末にも 17 本倒れていた倒木を撤去した。

ハイキングコースの案内や整備の充実が人気に繋がると思うのでこれからも地権者の方々のご理解を得ながら進めて行きたいと思う。山に入る方がますます増えると無秩序になることもあるが、地域の方々の連携や団結が必要になってくる。

古賀志山は、登山愛好家や地元の方々が、今年 7 月に NPO 法人を立ち上げ、案内板の設置やマナー向上の啓発にも取り組んでいただいている。篠井地区の皆様方には大変お世話になっているが、そうしたことも山を守っていく、そして大切なハイキングコースを維持していく上では必要だと思うので、出来れば検討いただきたいと思う。10 月 5 日と 13 日の台風の影響を考え、10 月 20 日月曜日に篠井ハイキングコースの現地確認をしてきた。榛名山、男山、本山、飯盛山の 5 つのコースを現地調査したが、その時点では 10 月 5 日と 13 日の台風の影響による倒木はなかった。これからも定期的に良く見ていきたいと思う。

発 言 4 篠井保育園について

今、子育て、少子化がとても重要な問題だと思う。篠井地区でも仕事を持つ女性が増加している。

そのような中、篠井保育園は篠井地区唯一の保育園であるが、その開園時間が広報紙などで朝 7 時から夕方 7 時までとなっているにもかかわらず、実際、篠井保育園ではその時間に子どもを預かってくれない。朝 7 時半に子どもを預けに行っても開いていない。夕方午後 6 時までには迎えに来いと言う。働いている女性、家族にとっては非常に苦しいところである。先生方の指導がいいかという保育園の良し悪しよりもその時間内に預かってくれるということがとても大切なことだと思う。

預けている人が市の保育課に行き「何とか篠井保育園で朝 7 時から子どもを預かってもらえるようにしてください」とお願いしたところ、「はい、わかりました」とのことだったが、その後、篠井保育園に朝 7 時から夕方 7 時までの預かりをお願いしても

許可されないそうである。そのために、勤めに行く間、自分の職場の近くの保育園に難しいところを預かってもらったり、保育園の近くに住む祖父母が送り迎えをしている状況だそうである。

そのところを市はどう考えているのか、どのような指導をしているのか聞きたい。

回 答	所管課：保育課
------------	----------------

【市長】

今の時点ではよくわからないが、原則として保育園の開園時間、閉園時間は決まっております、そういう条件で受け入れることが保護者の方々に伝わっているものである。そこで第1希望から第3希望まで申し込んでいただくので、調べて早急に対応したいと思う。そして、後ほど報告し、併せて会長にも報告をする。皆様も心配していることだと思うので実情を調べて対応をしっかりさせていただきたいと思う。

【後日対応】

保育課職員が篠井保育園を訪問し、職員にヒアリングを実施し、認可事業として届出している内容に基づき、午前7時に開所するよう指導した。

発言者と会長へ上記内容を報告し、ご理解いただいた。

発 言 5	篠井連峰登山道（下篠井登山口）について
--------------	----------------------------

本日、下篠井登山口から平成こどもの森、飯盛山の分岐点まで行って写真を撮ってきた。現状を見ていただきたいと思う。獣も通れないような状態で倒木もひどく、看板もひどい状態である。ここは宇都宮健康ハイキングコースになっているので、大いに利用していただき、市民の健康増進のために役立てていただきたいと思っている。

下篠井登山口から飯盛山の分岐点までは3時間弱のコースである。半日コースで利用もしやすいと思うので整備を早急に対応していただきたい。

実際、ここを訪れた方に話を聞くとかなりがっかりされて帰られる。

また、市へ電話をしたところ、電話をもらう約束をしまだがかかってこない。

回 答	所管課：観光交流課
------------	------------------

【市長】

本当にひどい状況で人が歩くハイキングコースではない。ここがハイキングコースであったことがわかるようなところはあるが、これでは高齢者の方が歩くのは無理だと思う。

早速、所管課に伝え、もう一度しっかりと対応をして、篠井地区の皆様が誇れるような、自慢できるようなハイキングコースにするとともに、一度不評を買ったり、悪い評判がつくともう来てもらえなくなると思うのでそういう観点からも早急にやっていきたいと思う。

現地の状況は分かったのでどういう対策が出来るか具体的なものと日程等が分かったら連絡をする。

【後日対応】

発言者を訪問の上、連絡が遅れたことについて謝罪するとともに、以下の説明を行い、ご理解をいただいた。

- ・地権者，森林所有者等の権利関係が複雑であること
- ・権利者等の許可を得ずに市が無断で伐採等できないこと
- ・登山道やハイキングコースの管理には地域の方々の協力が必要であること